

京都府景観資産第22号

浜茶と竹林の景観浜・城陽市上津屋

〜木津川の恵みがもたらす宇治てん茶〜



心癒される浜茶の景観と木津川のせせらぎ そして最高級のおもてなし

市内西部を流れる木津川沿いに、木津川の清流と自然仕立ての茶畑を洪水被害から守る竹林とが一体となった、調和のとれた景観が広がっています。山城盆地の中央を流れる木津川沿いの地域は、河川氾濫などによりもたらされた肥沃な沖積砂質土壌が開け、宇治川流域や東部中山間地域と並ぶ茶業の好適地とされています。



4月下旬には、一面の茶畑が黒色の寒冷紗や昔ながらの栽培方法である「こも」や「よしず」で覆われた壮観な光景が広がります。



寒冷紗を用いた覆い下栽培では、日光を遮って栽培することによりまろやかで旨みの多いてん茶が生産されています。また、「こも」や「よしず」を用いた昔ながらの本ず栽培では、労力や手間がかかりますが、遮光率の加減ができます。



わらやよしから垂れる栄養分が茶園にとつて良い影響を与え、香りや色合いのすぐれた茶葉となり、品評会で上位入賞を果たす最高級のてん茶が生産されます。収穫期には茶摘み子でにぎわい、活気あふれた雰囲気となります。



イベント案内

城陽茶まつり

お茶のおいしい入れ方教室やお茶席、茶そば席等が開催されます。



心和む抹茶ふれあい体験

てん茶を抹茶に挽く体験や本格的な茶室で抹茶をいただく体験ができ、お茶の種類・製造方法・成分などの説明を伺うことができます。



さざさか
鷺坂の昔



城陽のてん茶から作られた抹茶です。



アクセス

住所：城陽市上津屋地区
車：府道15号→国道24号
→府道281号を西へ
公共交通：近鉄久津川駅から徒歩20分



高品質の玉露を育ててきた丘陵に 古くからの集落が広がります

歴史的な重層性あふれた古墳群

丘陵部には弥生時代の集落跡や、四世紀から六世紀の古墳が数多く見られます。

- ◆ 飯岡車塚古墳 (前方後円墳) **前期**
- ◆ 薬師山古墳 (円墳)
- ◆ トツカ古墳 (円墳)
- ◆ ゴロゴロ山古墳 (円墳)
- ◆ 弥陀山古墳 (円墳)
- ◆ 横穴古墳 など **後期**

トツカ古墳からは、銅鏡や刀剣、馬具管玉などが多数副葬品として出土しています。

ゴロゴロ山古墳は、継体天皇の息子(梶子皇子)の塚であると言われています。

薬師山古墳は、飯岡古墳群の頂上にあり、石仏が祀られていて、京田辺市をはじめ京都市内を一望に見渡すことができます。

自然あふれる神社

くいおか 昨岡神社 (飯岡)

境内には、京都の自然 200 選に指定されている巨木スダジヤ、柿本人麻呂の萬葉歌碑があります。

イベント案内

飯岡文化祭

菊花などの展示や、飯岡産のそば粉に特産の玉露を練りこんだ「玉露そば」の模擬店が開かれます。



木津川に隣接する京田辺飯岡地区の中心には、標高約 67 m の独立丘陵 (飯岡丘陵) があります。飯岡丘陵は木津川が北上する際、蛇行して土地を侵食していった過程で、周りを削りとりてできた丘陵の一種で、周囲が木津川によって形成された平地であるため、よく目立ち、当地区を象徴する景観のひとつとなっています。

丘陵地は集落や茶園、竹林などに利用され、その周辺には水田が広がっており、自然特性を巧みに利用しつつ、茶生産をはじめとした複合的な農業が展開されることで、独特の景観を生み出しています。

丘陵地に広がる茶園では、履下栽培による玉露生産が盛んにおこなわれ、南山城地域を代表する産地となっています。



また、周辺の竹林は玉露生産に不可欠な覆棚をつくる材の供給地として、生業に欠かせない場所でした。水田のはさがけには、今も変わらず竹材が利用されています。

集落には手揉みを行っていた当時の茶工場を敷地に残す農家住宅があり、茶を生業としていた歴史をみるることができます。



住所：京田辺市飯岡地区

車：田辺西 I C → 国道 307 号 → 飯岡区

公共交通：近鉄三山木駅から徒歩 20 分

JR 三山木駅から徒歩 20 分

緑茶のふるさと・宇治田原湯屋谷

永谷宗円生家と茶園景観



日本煎茶の祖「永谷宗円生家」とその功績を祀る「茶宗明神社」

尾根向こうの茶園へと展開される日本緑茶発明のストーリー

イベント案内

永谷宗円生家新茶まつり

永谷宗圓翁顕彰会により手摘み体験会や簡単な製茶体験会が開催されます。



あじさいまつり

あじさいの花を愛でながら、永谷宗円子孫で方円流の永谷房園氏の点前による煎茶が楽しめます。

ながたにそうえん 永谷宗円(1668~1778年)

江戸時代中期の茶業家。青製煎茶法を開発し、江戸に販路を開くことにより、香良く美しい緑色の煎茶を全国に普及させました。

お問い合わせ先

京都府建設交通部
都市計画課

TEL 075-414-5328



宇治田原町の南東部に位置する湯屋谷地区は、「青製煎茶製法」を開発したと伝えられる永谷宗円の生地であるとともに、町内の茶栽培発祥地です。信楽街道からやや離れた二本の谷筋に沿って茶問屋と茶農家が集落をなし、うち一本の最奥に永谷宗円生家と茶宗明



青製煎茶製法は、当時の「蒸す・茹でる・乾燥する」という工程に、「乾燥前に蒸した茶葉に熱を加えながら揉む」過程を加えた製法であり、宇治製法とも呼ばれています。当地出身の永谷宗円が長年かけて開発したものと伝承されるこの製法により、美しい緑色で香りも味わいもそれまでとは比較にならない高品質なお茶へと、日本茶に劇

当地区の茶園は、両側が険しい山林に囲まれ、日照時間が短く風が通り抜け易い、天然の覆下でもいづべき茶栽培に適した地域で営まれていました。



茶宗明神社は、全国の茶業関係者の寄進により建設された、永谷宗円を茶宗明神として祀る神社であり、日本茶業の精神的な拠り所のひとつとなっています。



住所：宇治田原湯屋谷地区
車：国道 307 号→宇治田原町郵便局から徒歩
公共交通：近鉄新田辺駅、JR宇治駅、京阪宇治駅から京阪宇治バスで工業団地口下車、徒歩